

			良かった点	反省点		今後どうするか		
				No.	意見	No.	発言者	意見
① 募集	時期／募集 方法／募集 要項など	①図書館 意見	・デザイン会議参加者だけでなく、様々な方から応募があった。					
				1-1-1	1人1件応募を改善してほしいという意見あり。	1-1-1	図書館	多くの方に企画応募いただきたいため、現時点では1人1件応募を変更する予定なし。
				1-1-2	1周年イベント以外も募集しているということが分かりづらいという意見あり。	1-1-2	図書館	今後周年で募集する場合は、分かりやすく表記する。
				1-1-3	定例化するイベントについて検討の必要あり。	1-1-3	図書館	定例化したいイベントについては都度応募してもらうというルールはどうか。
		②会場 意見		1-2-1	1日開催ではなく、連続講座（季節ごとなど）の希望がある。定例というより年2回程度の開催などはどうか。	1-2-1	図書館	今後半年に一度ペースで企画募集などを行っていきたいと考えている。多くの方に応募いただきたいため、都度応募してもらうことはどうか。
				1-2-2	1周年イベントとして開催していたが、どこが1周年イベントなのか不明だった。	1-2-2		
				1-2-3	何のためにイベントをするのかの共有が必要なのではないか。	1-2-3	参加者	地域課題を図書館で議論するなど、新しい図書館の使い方方を市民の皆さんに理解してもらうためのイベントという認識ではないか。
				1-2-4	募集型のイベントについて、図書館のイメージと参加者のずれがあると思うため、議論が必要だと思う。	1-2-4		
				1-2-5	地域図書館で市民共同イベントが出来る仕組みがあるとよい。	1-2-5		
			背景をあまり知らなくても、自分たちのやりたいことを図書館の中で叶えられるという点ではよかった。敷居が高すぎると参加にためらうことがある。生涯学習施設として、機会を設けていただけてよかった。					

			良かった点	反省点		今後どうするか		
				No.	意見	No.	発言者	意見
② 決定 会議	決定会議の 開催について／決定方法	①図書館 意見	・運営者を集めるルールとしたことで、ある程度客観的な意見で協議することができた。					
				2-1-1	団体で出された企画の決定方法について検討が必要。	2-1-1	図書館	団体で企画を出す場合は、団体以外の人が運営者となるというのはどうか。
				2-1-2	運営者がいなくなった場合の対応について検討が必要。	2-1-2	図書館	運営者がいなくなった場合は中止とする。
				2-1-3	イベント中止とする場合の繰り上げ当選について意見あり。	2-1-3	図書館	繰り上げ当選については行わない。
				2-1-4	企画決定会議の参加者が運営者だけだと、運営者を集めることが難しい。	2-1-4	図書館	図書館としても広報をより広く行う。
				2-1-5	団体の会議に参加していた場合は、個別の人数でカウントすると運営に支障がでることがあった。	2-1-5	図書館	運営者枠に手を挙げる場合は1団体で1名とカウントすることはどうか。
		②会場 意見		2-2-1	企画内容があまり定まっていなかったり、内容が企画決定会議参加者に伝わらないままのイベントがあり、そのまま決定行為に進んでしまった。	2-2-1	参加者	・イベントとしてどう実施するかを決定会議参加者も理解したうえで決定したい(企画者の発表時間を長くする・実現可能にするための話し合いや情報提供などをするなど) ・決定時の多数決について、図書館内に掲示して来館者の方に投票してもらう方式はどうか。イベント自体の宣伝にもなる。 ・決定会議当日に企画を聞くのではなく、事前に企画書をHP等に開示して、確認してから会議を進めるということはどうか。企画自体はある程度しっかりしたものでないと受け付けられないという要項でも良いと思う。
				2-2-2	誰もが参加しやすいように、ある程度敷居が低くても良いのではないか。団体だけでなく一個人でも参加ハードルが低い方が良い。	2-2-2		
				2-2-3	イベント自体の方向性が見えるようなイベントのデータベース（特に周年イベントなど）があればよい。	2-2-3		
				2-2-4	全て市民応募型だけでなく、図書館主導のものと市民の意見が合致するものもあると考える。図書館企画のイベントにも運営に協力したい市民が入れるとよい。	2-2-4	図書館	イベント募集とは別枠になるかもしれないが、今後検討したい。
				2-2-5	仲間を多くつれてきた人がイベントを開催できるという方法は良くないと感じる。企画力や発信力が高い人の企画が通やすくなるのではないかな。	2-2-5		

			良かった点	反省点		今後どうするか		
				No.	意見	No.	発言者	意見
③ 開催 まで	広報／打ち 合わせ	①図書館 意見	・企画者が主体的に運営者と連絡を取り合えたことで、図書館とのやり取りが煩雑にならなかった。					
				3-1-1	「企画」「主催」など、イベントによって項目が違って分かりづらいという意見があった。	3-1-1	図書館	チラシFMTを作成する。
		②会場 意見		3-2-1	・イベントチラシが目立ちづらく、利用者から気付かなかったという意見があった。 ・チラシについて、図書館が印刷する場合は白黒印刷になるため、作成しても見づらい場合があった。 図書館主催のイベントはカラーで目立つ場所に置かれていたり差を感じたので、平等性を考えてほしい。	3-2-1	参加者	・館内に【現在募集中のイベント】というコーナーを設けてほしい ・イベント実施者以外に、市民協働の宣伝チームのようなものがあればよい ・参加者の対象が決まっているのであれば、ピンポイントに宣伝するのはどうか（学校への配布など） ・もともと白黒印刷であるというベースを伝えてもらえると嬉しい。 ・チラシポスターの掲示場所や置き場所について考えてほしい。
				3-2-2		3-2-2	参加者	付近の大学・高校生と協力体制を設けてはどうか。
				3-2-3	企画書や募集要項など、出来るだけ早い段階で広報を行ってほしい。	3-2-3		
				3-2-4	地域の施設とコラボして、地域施設イベントの参加者に図書館の宣伝を行うことはどうか。	3-2-4	図書館	周辺施設の横の連携は今後も行っていく予定。

			良かった点	反省点		今後どうするか		
				No.	意見	No.	発言者	意見
④ 開催	当日の流れ	①図書館 意見	・基本的に主催者、運営者が中心となってイベントを開催でき。					
				4-1-1	一般利用者との共有スペースでの会場設営が難しい場合があった（オープンスペースでの事前調整）。	4-1-1	図書館	主催者、運営者と事前調整を図書館でも確実に行う また企画書を再考しオープンスペースの利用について企画書段階で分かりやすくする。
				4-1-2	イベントにより集客が難しいイベントがあった。	4-1-2	図書館	主催者がやりたいことと、図書館の現状やニーズとのすり合わせを事前に行う。
		②会場 意見		4-2-1	ラーニングコモンズで通路を妨げることがあった。	4-2-1	参加者	貼り紙などを行ったり、誘導係などを付けるなどで対応したい。
				4-2-2	集客だけがイベントの目標ではないのではないか。評価基準を設けたほうが良いと感じる。	4-2-2	図書館	非来館者がイベントをきっかけに来館し、次の利用に繋げることも目的としている。 社会教育施設として、参加者がいないからやめるのではなく、自己実現としての場として続けていきたいと考えている。
				4-2-3	図書館の利用頻度によって、イベント実施場所の使い方に差が出ている。企画書段階で利用方法などの検討を行い、企画書を作りこむことが必要。	4-2-3	参加者	図書館の場所ごとの特性がわかるような講座やイベントや、企画書の説明など（イベントを開催したい人向け）があってもよいのではないか。企画募集時に、現地を見ていただくなどの方法もあり。
⑤ その他		②会場 意見		5-2-1	継続的な養成講座などが必要なのではないか。	5-2-1		
				5-2-2	デザイン会議は来年度行うのか。	5-2-2	図書館	デザイン会議（ワークショップ形式）のものは予定なし。企画決定会議は年に2回開催したいと考えている。 フォローアップ講座については開催予定。
				5-2-3	図書館サービスの認知度UPなど、図書館の基本的なサービスを行ってほしい。年度計画として図書館が方針を定め、市民と共有することが必要ではないか。	5-2-3	図書館	イベントは新規の来館者を増やすことも目的としている。
				5-2-4	図書館の企画で、「多世代」という言葉が多く出るが、「多様性」という言葉の方が適当ではないか。「知の地域創造」に関心を持っていたが、賑わいより地域の活性化（マイノリティの声を聴く・ボトムアップなど）を行った方がよいのではないか。	5-2-4		
				5-2-5	活動室の利用方法について、2週間前では長すぎる。 ※公民館のルール参照	5-2-5	参加者	多摩センター地区には公民館がないので、図書館が公民館的利用が出来たほうが良いと考える。